



# IBJ\*防除情報

第96号

(\*Ishihara Bioscience Japan=石原バイオサイエンスの略)

ご説明  
します

今月の特集①



## 茶樹害虫防除

### はじめに

お茶は中国で、古くから様々な飲物として楽しまれ、歴史と共に変化しながら、一般市民へと普及していきました。

日本でのお茶の歴史は、奈良～平安時代初期に中国から持ち込まれたことが始まりとされています。当時の日本は、遣唐使を唐(中国)に派遣し、文化や学問・制度等を学んで自国へ取り込もうとしていました。そのような中、彼らがお茶に出会ったのですが、当時お茶は嗜好品としてではなく、薬として服用しておられたそうです。

### 茶樹の害虫層とその特徴

お茶は、常緑の永年性作物に分類されます。さらに、1年に数回摘採を行うことにより、多くの害虫の生育に好適な新芽が1年に数回伸びます。大部分の害虫は周年お茶株内に生息し、茶株内で生育を完結させます。また、お茶は特殊な樹型に整えられます。つまり、葉層が厚く、摘採面付近は葉が非常に密に茂り、枝も複雑に伸び、内部には葉も存在します。

通常農薬散布は摘採面の上から行うため、摘採面には十分な薬剤がかかっても樹冠内部には農薬は十分にはかかりません。そのため、株の内部に農薬散布等の人為管理の影響の少ない空間が存在し、害虫とその天敵が保存される空間になっています。



# 秋季防除の重要性

秋芽生育期の病虫害防除は、翌年一番茶の安定生産のための秋芽充実や、翌年の病虫害の発生源を抑制する等の面からもとても重要視されます。そのため、通常薬剤防除が始まる春先が薬剤防除の開始と考えられますが、この秋季防除が「お茶の防除のスタート」とも考えられています。

この時期の防除対象となる害虫は、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、チャノホソガ、ハマキムシ等ですが、ヨモギエダシャクや産地によってはツマグロアオカスミカメ等も発生します。また、近年ではマダラカサハラハムシの発生面積も増加傾向にあります。そのため、産地ではワイドスペクトラムな薬剤を秋期防除として2~3回散布されています。

## ハマキムシ類の発生生態とその被害

お茶を加害するハマキムシ類で防除を必要とするのは、「チャノコカクモンハマキ」と「チャハマキ」の2種になります。

両種とも年4~5回発生しますが、発生時期も両種でほぼ一致しており、同一茶園で混発しています。発育期間も両種でほぼ一致し、夏期には卵期間が5~7日、幼虫期間は20~30日、蛹期間は5~10日です。産卵はチャノコカクモンハマキでは葉の裏面に、チャハマキは葉の表面に、どちらも卵塊で産卵します。卵塊はチャノコカクモンハマキ(数十粒)に比べ、チャハマキの方が大きいです(100粒程度)。両種とも若葉・古葉とも食害しますが、チャノコカクモンハマキは若葉を、チャハマキは古葉を好む傾向にあります。

両種とも幼虫が葉を加害して生葉収量が減少し、製茶品質も低下します。1頭あたりの被害は、体長の大きいチャハマキの方が大きいとされています。また、チャハマキはチャノコカクモンハマキに比べ卵塊が大きく、幼虫の分散が小さいため、坪枯れ状の被害になります。



## テッパン液剤の秋季防除期での位置づけ

テッパン液剤は、秋季防除期に発生する幅広い害虫に対する登録を取得しており、1回の散布で効果的に害虫密度を低減することができます。この時期に発生する害虫の内、特にハマキムシ類に対して安定した高い効果を発揮することから、複数回散布するタイミングの中で、ハマキムシ等のチョウ目害虫の重要性が高い時期に散布することを推奨しております。







# クビアカツヤカミキリ

## クビアカツヤカミキリとは

中国大陸原産のジャコウカミキリ科のカミキリムシで、学名をアロミア・ブンキと言います。その名の通り、首(正確には胸部)が赤く体はつやつやした黒色です。体長は30~40mmくらいの比較的大型の昆虫です。



雄 成虫

このカミキリムシは幼虫がサクラやモモ、ウメ等のバラ科植物の幹を激しく食害し、多数の幼虫が食入した樹は枯死することが多く、テレビや新聞でも報道されています。しかしこの虫の被害が問題になっているのはサクラだけではなくありません。一部ですが、モモやウメの産地も大打撃を受けています。原産地での寄主にはナシやカキの記載があるため、他への被害拡大も懸念されています。

## 日本への侵入と発生

公式には2012年に愛知県で初めて成虫が確認され、翌年には埼玉県草加市でもサクラの発生が確認されました。年々生息域は拡大しており、現在は7都道府県(愛知、徳島、大阪、栃木、群馬、埼玉、東京)で発生が確認されています。

## 被害の様子

幼虫に樹体内を激しく食害されるとその樹は枯死します。幼虫は2年間かそれ以上の基幹を樹体内で過ごします。2年目の幼虫は驚くほど大量のフラス(糞と木くずが混ざったもの)を排出します。フラスは細いうどん状のものからおがくず状のものなどいろいろなタイプがあります。



もも被害樹

## 防除対策

これまでは、この虫の防除に使用できる薬剤はあまりありませんでした。そのため、フラスが出ている樹には幹に網をかけて成虫の拡散を防ぐことが重要でした。しかし、最近この虫に対して登録を取得した農薬が増えてきました。弊社の「テッパン液剤」もその一つで、この虫の被害から少しでも植物を守ることに貢献できればと考えております。

# 害虫防除のテツパン技！！



## 特長

- ★幅広い殺虫スペクトラムで重要害虫の同時防除が可能
- ☆害虫の幅広いステージで安定した効果を発揮
- ★速やかな食害抑制効果
- ☆優れた耐雨・残効性
- ★作物に対する高い安全性

## 適用害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10アール当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	シクラニプロール を含む農薬の 総使用回数
りんご	シンクイムシ類 キンモンホソガ ハマキムシ類 ケムシ類 ギンモンハモグリガ ヒメボクトウ	2,000倍	200~700L	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
なし	シンクイムシ類 ハマキムシ類 カメムシ類						
もも	シンクイムシ類 モモハモグリガ カメムシ類 ハマキムシ類 <b>クビアカツヤカミキリ</b>						
ネクタリン	ケムシ類						
すもも	ケムシ類 シンクイムシ類 <b>クビアカツヤカミキリ</b>						
おうとう	ハマキムシ類 カメムシ類 オウトウショウジョウバエ マメコガネ コスカシバ						
ぶどう	ケムシ類 チャノキイロアザミウマ コガネムシ類	1,000倍	200~400L	摘採3日前 まで	1回		1回
茶	<b>チャハマキ</b> <b>チャノコカクモンハマキ</b> <b>チャノキイロアザミウマ</b> <b>チャノミドリヒメヨコバイ</b> <b>ヨモギエダシヤク</b> <b>チャノホソガ</b>						

※2019年5月15日付けの登録内容に基づいています。

# 石原の農薬登録情報



- 2019年5月30日～6月17日までの間に登録された弊社の新農薬（適用拡大を含む）は、次の通りです。  
（下線部が適用拡大になりました。）

## 5月30日 適用拡大 ワンサイドP乳剤

### <希釈水量の変更>

- ・作物名「えだまめ」の希釈水量「70～100L/10a」を「通常散布50～100L/10a 少量散布25～50L/10a」へ変更する。
- ・作物名「だいず」、「あずき」及び「いんげんまめ」の希釈水量「25～100L/10a」を「通常散布50～100L/10a 少量散布25～50L/10a」へ変更する。

### <使用時期の変更>

- ・作物名「えだまめ」の使用時期「雑草生育期(イネ科雑草5～8葉期)但し、収穫45日前まで」及び「雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期)但し、収穫45日前まで」をそれぞれ「雑草生育期(イネ科雑草5～8葉期)但し、収穫30日前まで」及び「雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期)但し、収穫30日前まで」へ変更する。

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		適用地帯	本剤およびフルアジホップを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量		
えだまめ	—	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く) シバムギ レッドトップ	雑草生育期 (イネ科雑草5～8葉期) 但し、収穫30日前まで	100ml /10a	通常散布 50～100L /10a 少量散布 25～50L /10a	全域	1回
			雑草生育期 (イネ科雑草3～5葉期) 但し、収穫30日前まで	75～100ml /10a			
だいず	—	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く) シバムギ レッドトップ	雑草生育期 (イネ科雑草8～10葉期) 但し、収穫60日前まで	100ml /10a	100L/10a	全域 (北海道を除く)	1回
			雑草生育期 (イネ科雑草5～8葉期) 但し、収穫60日前まで				
			雑草生育期 (イネ科雑草3～5葉期) 但し、収穫60日前まで	75～100ml /10a	通常散布 50～100L /10a 少量散布 25～50L /10a	全域	
雑草生育期 (イネ科雑草3～5葉期) 但し、収穫60日前まで							
あずき	—	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く) シバムギ レッドトップ	雑草生育期 (イネ科雑草3～5葉期) 但し、収穫60日前まで	75～100ml /10a	通常散布 50～100L /10a 少量散布 25～50L /10a	全域	1回
いんげんまめ	—	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く) シバムギ レッドトップ	雑草生育期 (イネ科雑草3～5葉期) 但し、収穫45日前まで				

【使用方法】雑草茎葉散布

(該当作物にかかる部分のみ記載)

### <使用上の注意事項の変更・追加>

なし



5月30日 適用拡大  
**プロパティフロアブル**

<作物名の追加>

作物名「かき」「トマト ミニトマト」「さやえんどう」を追加する。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ピリオフェンを含む農薬の総使用回数
<b>かき</b>	うどんこ病	3,000～4,000倍	200～700L /10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
<b>トマト ミニトマト</b>		3,000倍	100～300L /10a	収穫前日まで	2回以内		2回以内
<b>さやえんどう</b>					3回以内		3回以内

(該当作物にかかる部分のみ記載)

<使用上の注意事項の変更・追加>

なし

5月30日 適用拡大  
**アクセルフロアブル**

<作物名の追加>

・作物名「かんきつ」「キウイフルーツ」「かぶ」を追加する。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタフルミジンを含む農薬の総使用回数
<b>かんきつ</b>	ゴマダラカミキリ	200倍	5～200L /10a	収穫7日前まで	3回以内	主幹から株元に散布	3回以内
		1,000～2,000倍	200～700L /10a			散布	
<b>キウイフルーツ</b>	ケムシ類	1,000倍		100～300L /10a	収穫前日まで		2回以内
<b>かぶ</b>	コナガ		アオムシ		収穫3日前まで		

(該当作物にかかる部分のみ記載)

<使用上の注意事項の変更・追加>

安全使用上の注意

・「使用後は洗眼すること。」を削除する。

以下を追加する。

・散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。

作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをすること。

6月12日 適用拡大

## ガゼット粒剤

### <総使用回数の変更>

- ・作物名「さとうきび」のカルボスルフアンを含む農薬の総使用回数「2回以内（植付時の土壌混和は1回以内、培土時の土壌混和及び散布は合計1回以内）」を「3回以内（植付時の土壌混和は1回以内、培土時の土壌混和は1回以内、散布は1回以内）」に変更する。

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	カルボスルフアンを含む農薬の総使用回数
さとうきび	ハリガネムシ メイチュウ類 コガネムシ類幼虫	6~9kg /10a	植付時	1回	植溝土壌混和	<b>3回以内</b> <b>(植付時の土壌混和は1回以内、 培土時の土壌混和は1回以内、 散布は1回以内)</b>
			培土時		株元土壌混和	

(該当作物にかかる部分のみ記載)

### <使用上の注意事項の変更・追加>

なし

6月12日 適用拡大

## アドバンテージS粒剤

### <総使用回数の変更>

- ・作物名「さとうきび」のカルボスルフアンを含む農薬の総使用回数「2回以内（植付時の土壌混和は1回以内、培土時の土壌混和及び散布は合計1回以内）」を「3回以内（植付時の土壌混和は1回以内、培土時の土壌混和は1回以内、散布は1回以内）」に変更する。

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	カルボスルフアンを含む農薬の総使用回数
さとうきび	ハリガネムシ類 メイチュウ類	6~9kg /10a	植付時	1回	植溝土壌混和	<b>3回以内</b> <b>(植付時の土壌混和は1回以内、 培土時の土壌混和は1回以内、 散布は1回以内)</b>
			培土時		株元土壌混和	
	コガネムシ類幼虫	9kg/10a				
	カンシャコバネ ナガカメムシ	3~4kg /10a	収穫100日前 まで		散布	

(該当作物にかかる部分のみ記載)

### <使用上の注意事項の変更・追加>

なし



6月12日 適用拡大  
**アカリタッチ乳剤**

**<作物名の追加と変更>**

・作物名「おうとう」（ハダニ類（1000～3000倍））を追加し、「果樹類」を「果樹類（おうとうを除く）」に変更する。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロピレングリコールモノ脂肪酸エステルを含む農薬の総使用回数
<b>おうとう</b>	ハダニ類	1,000～3,000倍	200～700L /10a	収穫前日まで	—	散布	—
<b>果樹類 (おうとうを除く)</b>		1,000～2,000倍					

(該当作物にかかる部分のみ記載)

**<使用上の注意事項の変更・追加>**

以下を追加する。

・おうとうに使用する場合、果実に薬害を生じるおそれがあるので、果実に散布する場合は所定範囲内の低濃度で使用し、特に果実黄化期における散布はさけること。

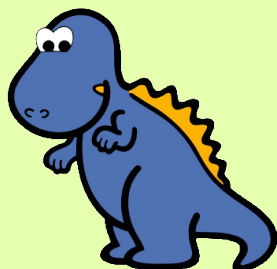
弊社では、圃場の土壌を御送付頂き、その土壌中のセンチウ量を測定し、防除計画の御参考にして頂く無料サービスを継続実施しております。

**ISK** 石原バイオサイエンス株式会社 本社 普及部

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-10-2

TEL 03-6256-9170 FAX 03-3263-2078

ホームページ アドレス <http://ibj.iskweb.co.jp>



センチウ検定  
無料キャンペーン  
実施中